

議 事 録 (要旨)

会議名

第 2 回 佐久市行政改革推進委員会

日 時

平成 26 年 8 月 5 日
(火)

開催場所

佐久市役所
議会棟全員協議会室

時 間

13 : 30
～
14 : 45

出席者

委 員：浅沼博、春日よし子、白井千尋、阿部博隆、黒澤正幸、
大工原俊之、田嶋亜弥、田島弘、丸山紀八郎、油井佐智枝、
工藤孝一、中澤朗、山口好古
事務局：企画部長 矢野光宏、企画課長 佐藤照明、
行政改革係長 遠藤貴信、行政改革係 小林誠之、佐藤由夏

委員

出 13 人

欠 2 人

提出資料

- ・資料 1 外部評価対象事業の選定基準
- ・資料 2 外部評価対象事業一覧（132 事業）及び実施スケジュール（案）
- ・資料 3 平成 26 年度事務事業外部評価の流れ
- ・資料 4 事務事業評価シートの見方
- ・資料 5 質問シート（記載例）
- ・資料 6 評価シート（記載例）
- ・資料 7 事務事業外部評価 評価区分について
- ・参考資料 佐久市行政改革推進委員会 部会名簿
平成 26 年度事務事業外部評価の日程について
平成 26 年度事務事業外部評価対象事業シート

《開会》

《あいさつ》

《会議事項》

【会議事項に入る前に事務局から報告】

佐藤課長 本日は、2名の委員から、都合により欠席させる旨のご連絡がありましたので、ご報告いたします。

本日の委員の出席は13名ですので、佐久市行政改革推進委員会条例第6条第2項の規定を満たし、会議が成立していることをご報告いたします。

「会議事項ア）対象事業の選定基準について（資料1～資料2）」

【外部評価対象事業の選定基準、対象事業一覧及び実施スケジュールについて事務局より説明】

委 員 資料1の事業の選定方法については、事務事業評価で対象とした約570の事業から7つの条件で対象から外していくと、残りが132事業だったということですか。

小林行革係 そのとおりです。

委 員 大半は対象外であったということですか。

小林行革係 法定受託事務等は市単独で行っているものではありませんので、外部評価は行わないことにしております。

【その他に質問等なし】

「会議事項イ）外部評価の流れについて（資料3）」

【各事業についての質問方法、外部評価の流れについて事務局より説明】

委 員 11月上旬にホームページ等で結果を公表とありますが、高齢等でパソコンを見られない市民もいると思います。すべてを掲載することは無理でも、市の広報誌等に結果を掲載すればそういった方も見ることもできるのでお願いします。

佐藤課長 昨年度においても広報誌に掲載しておりますので、今回も掲載いたします。

矢野部長 広報誌はもともとページ数が多く、詳細を掲載するとかえって見づらくなることも考えられますので、調整を行った上で何らかの形で掲載してまいります。

会 長 いくつかの掲載手段を組み合わせ、市民の皆さんにわかりやすい形で公表していくということによろしいですね。

【事務局了承】

【その他に質問等なし】

「会議事項ウ）評価方法について（資料4～7）」

【資料4 事務事業評価シートの見方について事務局より説明】

委 員 資料4の③についての説明「職員1人で1年間勤務した場合を1人と数えます」の部分は、何をどう表しているのですか。

佐藤課長 市の職員には正規職員の他に臨時職員がおり、例えば半年間勤めた臨時職員であれば、その業務には1年間で0.5人が関わっているという計算方法です。人件費という言い方をしておりますが、その事務事業がどのくらいの量があるかというのを、人を単位として評価し、市の事業全体で見た際に、人件費はどのくらいかかっているのか計算できるようにしております。

遠藤係長 その他にも、1人が1年間で例えば3つの仕事を掛け持ちしている場合、業務量等の比重により、0.1人分、0.2人、0.7人だとかに割り振り、合わせて1人分の人件費になるようにしております。例えば、0.7人とすれば、その人の1年間の仕事のうちの7割がその事業に関わっている、ということです。

委 員 ここに出てくる数字は最大でも1ということですか。

遠藤係長 2人以上が関わっている場合については2、ということもあります。

- 委員 1年間の単位で見ないといけないのですか。
- 遠藤係長 そのとおりです。事業単位が1年間ですので、他と比較する上で、1年間を通じてその事業に関わっている人数をとらえる方が分かりやすいということがあります。
- 会長 コストは、例えば消耗品や通信費がどれだけかかったかということだけだと、非常にわかりやすいわけですが、行政のサービスの方はむしろ人が動くことによって、サービスを提供するものが非常に多いと思います。そういった意味で、事業費だけではなく人件費もカウントしていることは、言ってみれば割合厳しい評価をしているということだと思います。その評価の中で、人件費をどのように見るか、例えば、時期的な忙しさのある仕事を1年で平均したり、1人で複数の仕事を持っている場合は、それを考慮して按分したりしているということでもよろしいですね。
- 委員 これは行政一般のやり方で、他の市等でも同じですか。
- 佐藤課長 丸々同じではないと思いますが、行政評価の分野ではよく用いられております。
- 委員 純粋に1年間に何百人かかったとか、1日に3時間しか関わっていなかったら1日に0.何人にしてそれを積算して1年間にどれくらいか、というような計算方法なら非常によくわかるのですが。
- 遠藤係長 その「1日」や「1時間」といった単位を1年間で設定したのが今回の考え方です。
- 会長 かつては事業費だけでコストを評価することが多かったわけですが、今では人件費もカウントしており、例えばソフト事業なんかはほとんど人件費だけみたいなものもありますから、そういう面で、厳密な計算になっていると思います。
- 委員 ついでにお聞きすると、1人でいくつもの事業を受け持つ場合、1日のうちに午前中は何々の事業、午後は何々の事業といった、自分が何の作業をどれだけやったかという記録は付けているものですか。
- 遠藤係長 仕事の比重は職員が計っており、それをもとに、所管課が事務事業評価シートを作成しております。実際にタイムカードを付けて記録はしておりません。
- 委員 日報による1日に仕事した作業量の記録は付けていないということですね。
- 佐藤課長 付けておりません。全国を見れば、帰庁時に作業の概ね何割をやったかを記録する自治体もありますが、やはり概ねになってしまいますので、今のところはそれぞれの所管の方で全体から見てこれくらい、という把握の仕方です。
- 会長 今は各事務事業評価シートの共通事項だけを、数値の入っていない資料4に沿って取り上げていますから、わかりにくい部分があるかと思います。実際に数字が入った事務事業評価シートを見ると若干わかりやすいと思います。

【その他に質問等なし】

【資料5 質問シートについて事務局より説明】

【質問等なし】

【資料6 評価シート、資料7 評価区分について事務局より説明】

- 委員 昨年は施設へ委員が見学に行きました。事務事業評価シートだけで評価するのも無理ですし、実際に体験するとイメージが変わることもあるので、施設の状態をふまえた上で自分の意見を出したいと考えています。今年はその予定はありませんか。
- 佐藤課長 昨年は部会に分けずにすべての事業をお願いし、日程的に大変だった部分もありました。今年には部会に分けて日にちを設定しておりますので、その中でご検討いただき、また必要であれば施設の方を回ることを検討したいと考えております。
- 会長 部会になって小回りが利く分、部会ごとにそれぞれ判断いただくということによりよいでしょうか。
- 委員 資料3の評価の流れの中で、質問は8月18日までに提出し、その後、部会で事業の説明を受けることになっています。このシートを読むだけで質問を考えるのは、なかなか大変だと思うのですが。
- 遠藤係長 部会当日に所管課からも説明いたします。また、わかりにくい点をご指摘いただきシートを改良し、それを見ただけで事業内容がわかるようにすることも市としての説明責任を果たすために重要ですので、ぜひご意見を頂戴したいと思います。
- 佐藤課長 部会毎に事業の中身が相当異なっておりますので、調整方法も様々かと思われまます。この先についてはそれぞれの部会で検討していきたいと考えております。
- 委員 質問シートの提出方法はメールでも良いとのことですが、その場合は資料5の書式にこだわらなくても、必要な各項目の内容がわかるように記載すれば良いですか。
- 遠藤係長 そのとおりです。

【その他に質問等なし】

「会議事項エ）所属部会について」

【所属部会について事務局より説明】

【質問等なし】

「会議事項オ）評価の日程について」

【評価の日程について事務局より説明】

- 委員 部会の日程で都合が悪くなってしまったのですが、どうすれば良いでしょうか。
- 佐藤課長 一旦、予定どおりの日程とし、日程の調整ができるか確認してご連絡いたします。
- 委員 部会が開催されるその日に部会毎の評価を決定するということですか。
- 佐藤課長 可能であればそうしたいと考えております。
- 委員 先程のように、出席したくても出られないという委員が出てくると、その方の評価が部会の判断に入らないと思うので、例えば、部会の結果は一旦持ち帰って郵送等で提出して事務局でまとめる、というような方法はできませんか。
- 佐藤課長 ご相談させていただきたいと思います。必ずしも一回の部会で決定しなければなら

ないとは考えておりませんので、部会の進み具合で考えてまいります。

会 長 部会の運営の仕方はどのように考えていますか。

佐藤課長 まずは部会長を決めていただきます。その後、所管課から各部会に説明を行い、それに対して質疑をいただきます。また、一項目ずつ説明を聞いて審議いただくのは時間的に難しいため、説明を通して聞いていただく予定です。判断については、欠席等があり、一旦持ち帰って、ということであればそうしていただこうかと思えますし、もっと議論をしたいということであれば、次の日程を調整したいと考えております。

会 長 第1回目はこの日程で進め、足りない部分があれば、個別に部会の方で調整をするということよろしいですね。

委 員 外部評価を急いでいるのですか。

遠藤係長 次年度予算編成が10月くらいから作業に入ることがあり、いただいた評価結果をなるべく早く予算に反映させたいという部分を踏まえた上での日程となっています。

佐藤課長 日程は余裕をもって10月下旬までとしておりますので、必要に応じて柔軟に対応いたします。

委 員 意見がいくつかに分かれた場合、多数決で決めるのですか。

佐藤課長 昨年は基本的に多数決で決めていただきましたが、合議で決めたものもあります。

委 員 各部会の評価をもとに、9月下旬の第3回委員会で部会の評価を尊重してそのとおりとするのか、それとも内容をもう一揉みするのかということですか。

遠藤係長 その場でお認めいただければ委員会の意見とさせていただきます。

委 員 所属する部会以外の分野は、所管課の説明を聞いているわけではなく、判断に困る点もありますので、結局は部会の判断で進んでいってしまう気がします。もう少し15名の委員全員で決断を下したというかたちにしていければと思うのですが。

矢野部長 まずは部会で事業内容をご理解いただくことが第一かと思えます。質問の提出期限は設定しておりますが、再度ご意向があれば、疑問解消のために情報を補充し、担当部会以外の分野であっても、できるだけ理解度を深める努力をいたします。今年は部会で肉厚にした分、課題があれば軌道修正して進めてまいります。

会 長 部会に分かれたので、一部会あたり与えられた項目が昨年より少なくなり、評価について、より深く議論ができるようになったと思います。その反面として、全体会議に部会の結果をどのように反映させていくのか課題になるわけですが、そこはしっかり部会の様子を簡潔にかつポイントをうまくまとめてもらい、部会に属していない皆さんにもわかるような説明をしていただければと思います。それでは、まず部会を開き、そのうえで進め方を改善するところがあれば直していただくということをお願いします。

【その他に質問等なし】

《その他》

矢野部長 資料で分からないところがあれば、遠慮なく事務局の方へお寄せいただければ、所管課と連携をとって、ご説明いたします。

【その他に質問や意見等なし】

《閉会》